

京丹後市立図書館

2024年度

おすすめの本

高学年
5・6年生向き

『6この点 点字を発明したルイ・ブライユのおはなし』（岩崎書店）



ジェン・ブライアント/文 ポリス・クリコフ/絵 日当 陽子/訳

目が見えなくても、本が読みたい。文字を読んだり、書いたりしたい。暗号から指でさわって読む文字「点字」を発明した盲目の少年ルイ・ブライユの物語。点字についてのQ&Aも収録する。見返しに記事あり。

『ぼくらの青 おはなしSDGs 海の豊かさを守ろう』（講談社）



佐藤 まどか/作 大庭 賢哉/絵

ある日、剛志はフリーダイバーの兄・正孝に誘われて海岸のゴミ拾いをした。ゴミの多さに驚いた剛志は、あらためて海の抱える問題に気づきはじめ…。物語をとおして、SDGsのことをわかりやすく伝える。

『捨て犬・未来と子犬のマーチ もう、安心していいんだよ』（岩崎書店）



今西 乃子/著 浜田 一男/写真

障がいを負って捨てられ、動物愛護センターで今の里親に救われた子犬の未来。元気になった未来のもとに、同じように捨てられた子犬たちが次々とやって来た。新しいあずかりっ子たちに、未来は色々なことを教えるようになり…。

『天の台所』（講談社）



落合 由佳/著

祖母が亡くなり、料理ができる人がいない朝田家の生活は荒れていた。このままではいけないと感じていた小6の天は、ひょんなことから近所の商店の店主「がみババ」から料理を教わることに。「料理」を通じて家族の絆を描く。

『となりのアブダラくん』（講談社）



黒川 裕子/作 宮尾 和孝/絵

ぼくたちの学校に、イスラムキョウの転校生が！パキスタンからやってきたアブダラくんのお世話係になった、小6男子のぼく、晴夜。最初、イスラムキョウのことはチンプンカンプンだったけど…。

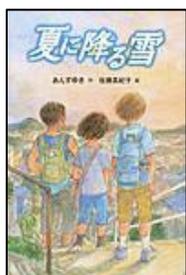
『大きなたまご』（岩波書店）



オリバー・バターワース/作 松岡 享子/訳

ネイトの家で飼っているめんどりが、ある朝、巨大なたまごを産んだ。世話をすること6週間、ついに出てきたのは、なんと、誰も本物を見たことのない、あの生きものだった！わくわくドキドキがとまらない冒険の物語。

『夏に降る雪』（フレーベル館）



あんず ゆき/作 佐藤 真紀子/絵

長崎県佐世保市に引っ越してきた小学6年生の大河。人見知りで、目立つのが嫌いなのに、戦争をテーマにした演劇に参加することになって…。実在する「戦争遺跡」を通して、自分と向き合い、現代を生き抜く子どもたちの物語。

『おじいちゃんとの最後の旅』（徳間書店）



ウルフ・スタルク/作 キティ・クローザー/絵 菱木 晃子/訳

病院に入院しているおじいちゃんが、死ぬ前に家に行きたいものがあるという。ぼくはおじいちゃんのために、病院を抜け出すカンペキな計画を立てた…。切ない現実をユーモアでくみ、巧みに描いた物語。

『夢をかなえる未来ノート』（PHP研究所）



本田 有明/著

プロ野球選手になる夢をかなえるため、陽翔は「未来ノート」を作ることに決めた。発明家になりたい弟の大翔、デザイナーを夢見る沙良とともに、夢を実現させるための一歩を踏み出した…。

無断での複製・転載を禁止します。本の内容紹介はTRC MARCより転載しています。

ほかにもあるよ おすすめの本

『星を見あげたふたりの夏』

シンシア・ロード/著

吉井 知代子/訳 丹地 陽子/絵
(あかね書房)

『星明かり』

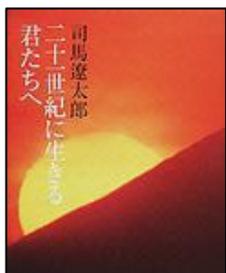
熊谷 千世子/作
宮尾 和孝/絵
(文研出版)

『エンザロ村のかまど』

さくま ゆみこ/文
沢田 としき/絵
(福音館書店)



『二十一世紀に生きる君たちへ』（世界文化社）



司馬 遼太郎/著

小学校国語教科書に収められた「二十一世紀に生きる君たちへ」「洪庵のたいまつ」を収録。子どもは何をしなくてはならないのか？人は何のために生きるのか？その答えが司馬遼太郎の肉声で聞こえてくる。

貸し出し中の本は予約できます。くわしくは職員におたずねください